

## 校友会における 同窓会の位置づけと役割

副学長（国際交流・校友会担当） 高橋 修



新型コロナウイルス感染症に翻弄されるなかで2回目のお正月を迎え、第6波の襲来と嘆いている時期にこの原稿を書いています。私は、昨年4月から国際交流・校友会担当の副学長をつとめさせていただいております。1987年に本学の修士課程を修了した第6期生で、この同窓会のメンバーでもあります。この場をかりまして、ごあいさつを申し上げます。よろしく願い申し上げます。

昨年2021年は、この同窓会が誕生して（第1期生が就職して）40周年を迎えた年でした。本学は、毎年450名以上の卒業・修了生を新規就職者（進学者は含まない）として社会に送り続けています。単純計算でも、2021年度末には、本学の同窓生は合計で約18,000名（実際はもう少し多い）はいるということになります。これだけの同窓生が世界各地に散らばって、それぞれの分野の様々な職種で活躍しています。

同窓会の役割は、大きく分けて次の三つであると思います。①同窓会員の相互の親睦を深めること、②母校および在学学生を応援、支援すること、③地域や社会に貢献すること。①と②については、直感的に容易に理解できますが、③については、例えば同窓会主催で毎年開催している「復活！開学記念マラソン大会」がそれに当たるといえます。「復活！開学記念マラソン大会」は大学や同窓会と直接関係のない、一般市民の方々も参加することができます。そのため、一般の方々とも広く交流ができ、スポンサーを引き受けてくれている地域企業とも接点ができて、少なからず地域の活性化に役立っていると思います。

①については、本同窓会でもこれまでにいろいろな形態で集会を企画、運営しております。近年では、大学や名誉教授懇談会と連携して、「ホームカミングデイ」や「同窓の集い」という形態で集会を開催しています。長岡技術科学大学に関係する同窓会は数多く存在しており、この会報を主催する同窓会の他にも、学科独自の同窓会、クラブ活動の同窓会、研究室の同窓会、同郷有志による同窓会等々、いろいろなグループ単位で同窓会が結成されて、活動しているようです。

この紙面をかりて私が強調しておきたいことは、②の役割の重要性と今後に向けた必要性です。これまでも本同窓会からは、大学および在学学生に対して多くの支援をいただいております。コロナ禍の2021年度には、大学基金のほうに多大な寄付を頂戴したとともに、同窓生に広く寄付を呼びかけてもらいました。上記の「復活！開学記念マラソン大会」「ホームカミングデイ」「同窓の集い」のどれも、大学あるいは在学学生への支援に繋がっています。

冒頭に、私は「国際交流・校友会担当」と書きましたが、同窓生の皆さんは「校友会」をご存知でしょうか？実は、同窓会メンバーの方々には校友会のメンバーでもあります。校友会とは、本学の卒業・修了生、在学学生、教職員および旧教職員の方を「校友

とし、校友同士でネットワークを構築して連携を強化し、本学の教育・研究・社会連携活動等の活性化を図ることを目的に、2018年に当時学長であった東信彦先生の要請のもとに設立された組織です。インターネットの検索システムに「長岡技大」と「校友会」のキーワードを入力して検索していただければ、校友会のホームページが最初に表示されます。そのページに詳しい情報が掲載されています。是非ともページにアクセスしてください。そして、登録がまだの同窓生は校友会に登録してください。

2017年3月のこの会報（vol.7、開学40周年記念号）で、当時学長の東先生が「50周年に向けて同窓生ネットワークの強化を」という題目で寄稿されています。内容は、10年後の開学50周年に向けて、長岡技術科学大学が更に発展するためには、同窓会メンバー間のネットワークの強化が必要であり、会員皆様のご支援とご協力をお願いしたい、というものでした。開学50周年は2026年になります。これまで10年毎に周年行事を行ってききましたが、やはり50周年はひととき大きな節目となりますので、開学以来、最大の周年行事になるものと予想されます。そして、開学50周年に向けた活動において、重要な役割を果たすのが校友会組織です。

現在の校友会は、一つの組織として活動しにくいところがあります。その理由は次の状況にあるためと思います。校友会の構成メンバーは同窓生、大学（在学学生と教職員）および旧教職員ですが、同窓会と大学にはそれぞれ代表者と運営組織が存在しています。この二つの組織の構成メンバーを包含する校友会には、代表者と運営組織が存在していません。そして、校友会の存在を意識しての同窓会と大学とでの相互の役割分担や連携の仕方がまだ具体的に固まっていません。そのため、校友会という一つの枠組みのなかで、お互いの組織がどのように関わり合っていけば良いのか、まだ手探りの状況と思われる。これは校友会が設立されて、時間経過がまだ十分でないことに起因しています。校友会の事務作業は、大学事務局の総合情報課基金・卒業生室という部署が担当しています。これまで、「ホームカミングデイ」や「同窓の集い」を協働して開催してきた経緯はありますが、コロナ禍で2年間、これらのイベントがなく、担当副学長を含む基金・卒業生室と同窓会役員との交流、連携が少し疎遠になっている感じがしています。私には、立場上、これを改善することが求められています。

同窓生の皆様には、50周年という大きな節目を意識して、同窓会における会員ネットワークの繋がりを再度緊密にするとともに、在学学生や教職員とも接点をもって、上記②の役割を果たしていただくことをお願い申し上げます。そして、校友会の活動として、同窓会と大学が一丸となって開学50周年の記念行事を企画、運営していきたいと思っております。最後に、同窓生皆様のみならずのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

# OB・OGキャリア講演会 (同窓会設立40周年事業)

## 開催報告と所感

同窓会理事 **上村 直史** (生物統合工学専攻 平成23年3月修了)

令和3年12月4日に在校生のキャリアプランの立て方を支援することを目的として「OB・OGキャリア講演会」をオンラインZOOM開催しました。OB・OG関連のイベントは平成19年に安井忠 理事が「OB・OGトークショー」として学生の就職支援を目的として開催したのを皮切りに、担当に山岸 郷志 理事が加わりつづ平成25年まで毎年開催されてきました。トークショーでは、卒業・修了から3～5年を社会で経験した若手OB・OGを講師とし、当時はまだインターネットにも情報が限定されていた「会社で働いてみたホンネ」をお話いただくというトガったイベントでした。今回は久しぶりの復活開催ということで、就職支援というよりも技大OB・OGの生き方や仕事に対する価値観を在學生に知ってほしく、ベテランから若手まで多様な年齢層・業種の方から修了後のロールモデルとしてのキャリア形成や第一線で活躍する様子をお話し頂きました。お声がけした産業技術総合研究所の渡利さん、新潟県・糸魚川地域振興局の瀬戸さん、東京大学の原さん、EXEDY India Ltd.の阿部さん、皆様「技大の在學生のお役に立てるなら」と即決快諾いただきまして誠にありがとうございました。本イベントは、キャリア講演とパネルトークの2部編成で実施し、パネルトークでは安井 理事司会のもと、「働き方の価値観の変化」「男女共同参画」「研究者に向いている人とは」「長岡技大卒ならではの社会で活躍するコツ」をテーマにざっくばらんに話しあいました。瀬戸さんからは土木分野で女性が働きやすくそして活躍できる環境に変わってきている実際を、原さんからは面白さ嗅覚に従ってノープランで海外にポスドクでチャレンジしても超努力&苦勞すればなんとかなることを、阿部さんからはインドに行ってみたら自分が今やりたいことが発見できた話を、そして渡利さんからは技大で博士修了までに学んだことは技大だから学べたことであり、それが社会で活躍するコツであり生き方の基盤にもなっていることを、、、濃密な情報に圧倒されつつあっという間に講演&パネル

トークが終わり、気づいたら在學生向けに開催したつもりが、OB・OGのご活躍を目の当たりにし技大教員として改めて教育の重要性と講演者の方々の基盤をつくり育てあげた本学を誇りに思う機会に発展できたように思います。「OB・OGキャリア講演会」を企画・開催できたことに感謝いたします。



**渡利 広司** さん  
産業技術総合研究所  
イノベーション推進本部 本部長  
1990年3月材料工学 博士修了  
指導教員：石崎幸三先生



**瀬戸 民枝** さん  
新潟県 糸魚川地域振興局  
にいがた土木女子会議代表  
長生会会長  
1992年3月建設工学 修士修了  
指導教員：桃井清至先生



**原 啓文** さん  
東京大学大学院  
特任准教授  
2003年3月情報制御工学 博士修了  
指導教員：福田雅夫先生



**阿部 佑美** さん  
EXEDY India Ltd.  
2019年3月機械創造工学 修士修了  
指導教員：宮下幸雄先生

講演者の皆様



参加者集合写真 (ビデオOKの方)@ZOOM

## 建設業の元気を女性から！

新潟県 糸魚川地域振興局 **瀬戸 民枝** (建設工学専攻 平成4年3月修了)

大学院修了後、新潟県職員として、土木行政に携わっています。県民の安全・安心のため、生活の利便性向上のため、縁の下での力持ちとして地域づくりに貢献できることにやりがいを感じながら30年になります。

「みんなにありがとうと言われる公共事業」を仕事のモットーとして、住民良し、受注者良し、発注者良し、の三方良しの仕事を目標としています。

ただ、人口減少が加速化する中、担い手確保が一つの課題となっています。どこの業界でも同じ悩みはあると思いますが、特に建設関係は以前から3K(キツイ、汚い、危険)と言われ敬遠されてきた経緯もあり、新規入職者の獲得が厳しい状況が続いています。そんなイメージを打破するため、業界では様々な取り組みをしています。最新のICT技術を駆使した現場は若い世代にも受けが良く、完全週休2日の実現や福利厚生充実など、働き方改革を意識した、選ばれる建設業を目指しています。

そんな取り組みの一助になればと、建設業の魅力発信のために、県内の建設業に勤務する女性達が集まって、「にいがた土木女子会議」を立ち上げました。建設業は圧倒的に男性社会ですが、元気に頑張っている女性も増えてきています。女性が活躍している姿を発信することで、男女関係なく誰もが安心して働けるオープンな業界であることをアピールでき、業界全体のイメージアップにつながると考えています。具体的には、「出張PR」と称して、中学・高校に出向いて仕事の紹介などを行っています。女性が説明する姿は、

学生には新鮮に映るらしく、「女性が活躍していてびっくりした」「自分にもできそうだと感じた」など嬉しくなるアンケート結果もあり、手応えを感じています。その他にも、女性が担当する現場の見学会や意見交換会などを開催し、技術力向上のための研修をしながら、女性ならではの、お悩み相談的な情報交換も行っています。

我が国では、いまだに女性が家族的責任の大部分を担っている現状があります。女性が男性と全く同じように働き続けていくことには、まだまだ課題山積ですが、少しずつ状況は改善されてきていると感じています。

圧倒的男性社会については、母校も同じ環境であり、学生当時から慣れと、先生方・先輩方に鍛えていただいたおかげで、私自身は働き続けてくることができました。女性が社会で活躍し定着していくためには「期待・機会・鍛え」の3Kが必要です。職場に女性がいるという皆さまには、暖かくそして厳しく、背中を押していただきながら、成長に期待を寄せていただけたらと思います。



趣味は日本酒と着物です

## 技大で得た“宝”

産業技術総合研究所 渡利 広司（材料工学専攻 平成2年3月修了）

長岡技術科学大学の在學生、同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のことお喜び申し上げます。

私は博士後期課程修了後、産業技術総合研究所に勤務し、セラミックスの研究に従事し、10年前より研究現場を離れ現在本部にて先端技術によるイノベーション推進を担っています。技大を飛び立ち、32年の月日が経ちますが、大学での教育が今の自分の礎となっています。当時のことを思い出し、書かせて頂きます。

私は松江高専を卒業し、学部3年に入学しました。入学動機は、カリキュラムが魅力的であったこと、長岡という地から歴史の大転換期に多数の人材を輩出していること、山下清画伯の切り絵「長岡の花火」が素晴らしく、その花火を“直に”見たかったこと等です。学部時代には、二つの貴重な経験ができました。一つは、冬休みの3ヵ月間欧州を一人旅をしたことです。当時世界は東西冷戦状態であり、厳重な国境警備があり（ベルリンの壁もありました）、各国独自の通貨が存在する等旅行の不便さを感じた時代です。一方で、旅先では各国独特の文化を肌身で感じました。食事のこと以外何も考えず、自由気ままに旅行ができた“最高の旅”でした。

二つ目が実務訓練です。社会人の厳しさを味わい、自分の甘さを痛感した日々を送りました。このため、大学院では未熟な自分を叩き直すために、ベネズエラから帰国直後の石崎幸三先生の研究室に配属を希望し、院生の5年間ご指導を受けました。

石崎先生は、変化する時代の中で、数々の課題に対応できる優秀なエンジニアを社会に送り出すことを目的に掲げ、我々学生は“研究活動を通じての教育”、具体的には高い理

系基礎学力や語学力の習得、国際的な視点での考え方、独創的な研究の進め方等を充分すぎるほど受けました。また、先生は学生の節目において数多くのチャンスを与え、学生の潜在能力を引き出し、大きな成長を導くことにも熱心でした。しかし、私は頂いたチャンスをほとんど台無しにしました。劣等生の私を見捨てずにご指導を頂いたこと深く感謝しております。

大学院時代は、先生の指導の下、研究業績は確実に積み上げましたが、私の博士論文審査会は厳しい質問を受け、6時間以上に及ぶものでした。審査の視点は、一言で言うと「この学生が今後米国の名門大学出身の博士と伍していけるか」の資質を問われた審査会でした。主査の石崎先生をはじめ、5人の副査の先生は米国大学の博士号取得者もしくは海外で高い研究実績を有しておられ、新設の大学院博士課程の学生の育成に対して熱い情熱と高い期待を持って指導されたのだと思います。会終了後には懇親の場があり、主副査の先生より今後への期待の言葉を頂くと共に、この瞬間“人生最高の美味しいビール”を味わうことができました。

大学院修了式のあと、多くの方から「石崎研を無事修了できたら、どこでも活躍できるよ」と激励の言葉を頂きました。私は社会人になって数々の困難を経験しましたが、この言葉を思い出しながら、“根拠のない自信”で修羅場を乗り越えてきました。“根拠のない自信”こそが、長岡で得た私の“宝”だったと強く感じています。



2006年米国セラミックス学会の受賞パーティ(筆者左側)

## 講演いただいた皆様、参画いただいた皆様、お疲れ様でした

同窓会理事(学外) 安井 忠（材料開発工学専攻 昭和62年3月修了）

本講演会におきまして、後半パート『パネルトーク』進行役の拜命を受け、つたないコーディネーターを務めさせていただきました。当日の不備、特に早口で聞き取りにくい発言が多々あったと反省しております。この場を借りてお詫び申し上げます。

ご講演、ご説明いただいた内容に関しては、講演者各位からの寄稿文に一任させていただきます。

このたびご講演いただいた講師陣の、そのぶれない考え方を直接聴講できた、特に現役学生の皆様には、ある種の“憧れ”にうつったのではないかと思います。

その反面、講師陣の様なキャリアを積み重ねるには、それ相応の自身の推進力が必須なんだと理解できた内容で

あったとも思います。

他の人より、何倍も汗をかけば、なりたい目標に近付けるんだ、を体現されている訳であり、刺激を受けた方が数名でもおられたら、本講演会開催は成功だったと云えるのではないのでしょうか。

コロナ禍であるが故のオンラインでの開催となりましたが、今後の同窓会活動を進めるための、一つの方向性を見いだせたようにも思えます。

次回に向けて、例えば「〇〇職種従事の方のお話を伺いたい」など、同窓会に向けてなげかけていただければ幸いです。

## 会員寄稿

# こんな元技大生いる？日本も世界も一周した話

鹿嶋企画(個人事業主) **鹿嶋 功貴** (機械創造工学専攻 平成26年度修了)

長岡技術科学大学の大学院を修了してから6年半の月日が経ちました。こいつ本当に元技大生か？という人生を歩みつつあるので、何か読んでいただいた方の参考になればと思います。

元々は高専の先生になりたいと思い、長岡技大に高専から編入し、勉学と研究に励んでいたものの、こもって研究するというのが性に合わないなということから、いろんな業界の人たちに会いつつ、地方活性がしたいと新卒学生の就職支援をしている求人広告の会社に営業として文転就職。苦勞もありません、そこそこの成果を出していきました。

ただある日

「いい大学に行き、大きな名の知れている会社に入り、役職がつき、結婚し、子供が生まれ、家を建て、年金がもらえるまで、働き続ける。それが幸せでしょ？」

という【幸せのテンプレート】のような生き方を上司に提示された際に

「それ、くそつまらないですね笑」

と言い、勢いで会社を辞め、ピースボートの世界一周の船旅に出かけました笑

船で出会った仲間たちと様々なことを企画し、旅し、笑い、泣き、を繰り返した日々が本当に最高でした。

自分の今まで持っていた価値観をぶっ壊し、これからの人生の選択肢を増やす、という二つの目的がこの旅で達成でき、次はこれを日本に還元したいと、日本一周の旅に原付で出かけました。日本一周中で驚いたことは、地元にいる人ほど、地元のことをよく知らない、魅力に気づいていないということ。北海道で魚介がうまいのは当たり前だし、沖縄で海が綺麗なのは当たり前だし、新潟で米がうまいのは当たり前なのです。

ずっと地方活性に関わっていきたく思った僕にとって、それを改めて気づかせる旅でした。

日本一周終了後、僕が行こうと思った土地は、地元の山口県ではなく、新潟県でした。新潟は魅力がたくさんあるものの、まだまだ発信不足、伸び代はまだまだあるなと確信したからです。新潟に戻り、まず地域おこし協力隊という制度で、行政のお手伝いをしながら地域を盛り上げる活動をし、最終的にはゲストハウスを作って、県外、海外と地方をつなぐような活動をしようと考えていました。

しかし、2020年新型コロナウイルスの影響で、状況は一変。宿泊、観光、旅行等は大打撃を受け、大きく方向転換を余儀なくされました。それでもえいや！で、協力隊を卒業し、2020年8月から独立、現在は営業代行業を中心に、全国の企業の営業のサポートをさせてもらっております。

僕が今やっていることは、地方でも、だれもが自由な価値観を持ち、自信をもって活動できる空間を作ることです。そう、「地方にピースボートのような空間を」作ることです。2020年の秋に、友人と新潟駅前にNAKAMAというBARをオープンし、新潟の若者たちが集い、様々なチャレンジを生み出すきっかけの場所になっています。

ぜひ、新潟市に遊びに来た時は、NAKAMAへ遊びに来てください！



世界一周中のキューバでの写真

## 五黄の寅の男と地球温暖化の相関関係

(一財)新潟県環境分析センター 環境調査課 **小林 正樹** (環境システム工学専攻 平成24年修了)

皆様は何回転職しましたか？私は3回です。さらには令和4年4月に4回目の転職をします。4の数字が並んで気味が悪いです、令和4年度の私は、年男(五黄の寅)で36年に一度訪れる「最強金運の年」と呼ばれているそうなので、最終的に良い年か悪い年どちらになるのか楽しみです。年齢がバレますね。五黄の寅生まれの人の性格は、行動力があり頑固でマイペースな方が多いそうです。そう考えると私自身、なぜ友人が少ないのか、なぜ転職4回なのかという点に納得です。

私は環境問題を学びたいという漠然とした思いで本学に入学しました。大学生活は主に研究・バイト・交遊の3部構成でした。全てが刺激的で新しい日々の連続で、根拠のない自信や意欲で様々なことにチャレンジすることに楽しさを感じ、その感覚が現在の原動力になっている気がします。やりたいことを求めすぎて4回の転職になりましたが、(工場勤務、商社マン、環境調査他)ここだけの話ですが、本学のネームバリューは転職活動において、かなり役立ちましたので是非とも有効活用をお勧めします。

本学の大学院では、今はなき環境リモートセンシング研究室に所属し、NASAの地球観測衛星のMODIS画像を用いた雲域頻度等の画像解析を行いました。当時の力丸教授、高橋准教

授、坂田大先生のご指導のもと、時には厳しく、時には共に羽目を外すなど紆余曲折ありましたが、研究成果を出すことができ、物事を達成することの喜びを知りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

近年の地球温暖化は、令和3年8月に公開されたIPCC第6次評価報告書(気候変動に関する政府間パネル)によると2011-2020年の間で地球表面の温度が約1.09℃上昇し、温暖化がすでに極端な高温現象や降水増加を引き起こしているそうです。本学を修了してから10年程経ちますが、地球の地球表面温度と私の転職回数は上昇し続けています。私個人の力など地球環境のエネルギーと比べ物にもなりません、これまでの経験を地球上に還元する時が来たようです。



2021年阿武隈洞にて

## 挑戦は自由だ

長岡パワーエレクトロニクス株式会社 **大沼 喜也** (エネルギー・環境工学専攻 平成24年修了)

2012年に発売されたクリスアンダーソン著のMAKERSという本をご存じでしょうか。21世紀は個人による「もの作り」が世界を変えると綴られています。製造業でもウェブ企業と同じく、パソコンとインターネットがあれば立ちあげることができる時代になると。私は、10年前に大学を卒業し起業しました。当初はそれこそパソコンしか無かったわけですが、それでもベンチャーならではのスピード感で次々にチャレンジなもの作りをすることができ、現在も続けられています。起業と聞くと、リスクが高いように思われがちですが、もの作りという観点で言えば今の時代、かなり低くなったのではないのでしょうか。逆に、ただ授業を受け、(大手)企業に就職すれば良いもの作りができ給料が貰えるという考えの方がリスクは高いと思います。学生であろうが、年配であろうが、だれもが「もの作り」をすることができ、売り出すこともできます。ただし、良いものを作るには正しい判断をする必要があります。それはインターネットで検索できる、うわべだけのものではなく、理論を理解し、様々な人の意見を聞き、実際に手を動かして経験することが重

要です。技大は技術者にとっては良い環境が整っています。あとは、自分でまたは仲間を見つけて、やるか、やらないかだけです。



会社のメンバーと(一番右が著者)

## これまでを振り返って

都城工業高等専門学校 物質工学科 助教 **平沢 大樹** (生物統合工学専攻 令和元年6月修了)

在校生・同窓生の皆様に於かれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。またこの度、この様な執筆の機会を頂いたことに感謝いたします。折角の機会ですので、少し今までを振り返ってみたいと思います。拙い文章で恐縮ですが、最後までお付き合いいただくと幸いです。

私は、北海道の高専から本学へ編入し、学部、修士課程、博士課程、そして研究員と9年近くの月日を本学で過ごしました。学部4年から入った発酵科学研究室(小笠原研、当時は生物資源工学研究室)では、研究を通して問題解決のスキルや粘り強くなり抜く力が身につきました。特に、恩師である小笠原先生にはご迷惑をかけながら大変お世話になりました。先生の厳しい指導の中にも「研究」のおもしろさに触れることができ、その後も「研究者」として生きていきたいと思い、今に至っています。現在は高専の教員として、学生に微生物について研究・教鞭を行っています。研究という仕事は子供の頃からの夢でもあり、現在の仕事にとてもやりがいを感じております。私が高専で働くことができると思ってもおらず、とても感慨深い思いです。この職につく時、世間はコロナ禍の真っ只中で、経験したことがないようなドタバタの中、教職員や学生に温かく迎え入れていただき、あっという間に2年が経とうとしています。オンラインの対応など教育環境も大きく変革を余儀なくされ、私自身も成長できたと思います。その際、小笠原先生の何事も楽しく真剣に取り組んでいた姿勢を思い出しながら、授業や研究を行う環境を整えていきました。私も小笠原先生から教わった研究者としての心構えや考え方を少しでも後世に伝えていけ

たらと尽力していきたいと思えます。

最後になりますが、博士号を取得することができても、必ずしも自分の専門で活躍できるとは限りませんが、私は幸運にも私の専門分野で仕事ができています。小笠原先生をはじめ本学の先生方には大変気にかけていただき、現在も一緒に仕事をさせていただいています。本当にありがたいことです。こうして大学生活を振り返ってみると、そのすべてが今の私の大部分を形作った時間だったと改めて感じさせられました。本学で学ばれる皆様にも、自己を形成する貴重な時間を過ごされることを願っております。最後に、このような機会をいただきました編集委員の皆様にも厚く御礼申し上げます。



小笠原先生との2ショット(修士時代)

# イベント報告

## 第10回「復活！開学記念マラソン大会」を迎えて

同窓会理事 芳賀 仁 (エネルギー・環境工学専攻 平成16年修了)

令和3年10月9日(土)に第10回復活！開学記念マラソン大会を実施いたしました。288名の方にご参加いただき、うち地域から96名お集りいただきました。コロナ禍ではありましたが無事成功裏に終わることができました。元々は同窓会の周知と地域交流を主な目的として企画したイベントですが、同窓会行事としてすっかり定着しています。平成24年から毎年実施してこの度第10回を迎えました。本報告でこの10年を少し振り返りたいと思います。

当時、同窓会理事会(平成24年6月22日)にて同窓会発足30周年記念事業を検討していました。そのなかで、以前クラブ連絡会が中心になり、開学記念日(10月1日)に合わせて「開学記念マラソン大会」を実施していたと話題になりました。「同窓会が主体になりマラソン大会を復活させて30周年記念行事とするのは？」と盛り上がりました。大会概要を検討して「復活！開学記念マラソン大会」を9月29日(土)に実施することが理事会で承認されました。8月24日のことでした。本番まで約1か月です。その後、大会当日までの「やらなければならない項目」をリストアップしました。広報活動、マラソンコースの決定、道路使用許可、ランナーとスタッフの募集、学内外の

関係者や地域の方々へ挨拶まわり、縁日コーナー(ふわふわ遊具)の企画、祝賀会の企画、本部設営(テント、長机、パイプ椅子)、コース沿道の看板作成、給水ポイントの設営、参加記念品の準備など、枚挙にいとまがありません。随時更新した結果、最終的に「やることリスト」は162項目まで増えました。これらを限られたメンバー(5~6名)で準備しました。実に楽しいものです。

第2回大会以降も安全安心な運営に向けて様々な改善を行っています。最近では、スタッフ用のポロシャツ、ゼッケン、参加賞のポストカード、記念タオル、布バッグなどをオリジナルで製作して配布しています。手作り感満載なところも本イベントの特徴となっています。大会を重ねるごとに参加者も増え、地域からの参加者の割合も増えています。本大会を毎年楽しみに参加していただける常連ランナーさんも現れるようになりました。

このようにマラソン大会を通じて、同窓会と在学生、教職員、旧教職員そして地域の方々との交流を大いに深められています。同窓生の皆様もご家族とご一緒に一度遊びに来ませんか。



### ■第10回マラソン大会の成績

成績	第1位		第2位		第3位	
2km	島津 祐我(小5)	8'39"	高橋 豊(小2)	8'46"	西方 彩花(小3)	9'13"
女子 5km	兵藤 桃香	20'39"	島津 淑恵	24'19"	八木 香織	25'34"
男子 5km	計良 優輝	15'58"	柏木 孝啓	16'09"	綾野 陽仁	16'25"
女子10km	小野 千衣子	42'32"	伊丹 敬子	46'04"	松尾 由香	46'43"
男子10km	斎藤 和樹(B4)	31'52"	長谷川 聡一(B4)	32'11"	小林 逸郎	32'48"

### ■参加者の推移と主な取り組み

	第1回(H24)	第2回(H25)	第3回(H26)	第4回(H27)	第5回(H28)	第6回(H29)	第7回(H30)	第8回(R1)	第9回(R2)	第10回(R3)
2km	23	17	52	56	44	75	116	104	84	55
5km	60	64	43	53	87	75	51	59	48	62
10km	59	106	84	83	86	78	79	93	76	106
スタッフ	90	84	74	77	75	75	79	80	54	65
総計	232	271	253	269	292	303	325	336	262	288
取り組み	・緑日コーナー ・おにぎり、豚汁 ・参加記念メダル ・車の湯入浴券 ・参加記念タオル	・のほり作成 ・ジャンボコーン ・市政だより広報	・アオーレ長岡の スクリーンで告知 ・絵はがき作成 (早津剛先生)	・バナナの配布	・内田エネルギー 科学振興財団から 助成 ・コットンバッグ 作成 ・企業のほり作成	・警備会社に委託 ・スタッフ用ポロ シャツ作成 ・ゼッケンの作成			・新型コロナ対策	・不織布バッグ作 成



## 技大祭報告

第40回 技大祭実行委員長 **水上 棕介** (情報・経営システム専攻)

こんにちは。第40回技大祭実行委員会委員長を務めました水上棕介です。今年度の技大祭について報告します。

昨年度は新型コロナウイルスの影響により中止となってしまう技大祭ですが、今年度は『飛翔のトキ』のテーマのもと、10月3日に2年ぶりの開催を果たすことが出来ました。新型コロナウイルス禍ということもあり、今年度は感染対策を講じた上で技大関係者のみ参加できる現地開催と、オンライン配信を並行するという初めての開催形式をとりました。

企画としましては、例年行っている模擬店による食販は行わず、主に学生が交流し楽しんでもらえるようにと麻雀大会、ポーカー大会、ゲーム大会や抽選会などを行いました。また、サークルによるバンド演奏やダンス、留学生による演舞や、化学ショーなどをインターネット上で配信いたしました。その結果、企画に参加した学生達でのLINEグループが出来たり、配信に数多くの視聴者が来られたりと様々な反響を得ることが出来ました。

さて、この技大祭の開催にあたりまして、同窓会からは助成という形でお力添えをいただきました。各種企画の充実などの運営費に充てさせていただき、おかげさまで無事に技大祭を終えることができました。この場をお借りして厚くご御礼申し上げます。

検温であったり、間隔を空けて観客席を設置するであったり、配信であったりと、たくさんの新しいことにチャレンジした第40回技大祭ですが、いくつかの改善点もありました。ただ間違いなく言えることは、この第40回技大祭は、技大祭としての『飛翔のトキ』となったということです。

新型コロナウイルスの影響もあり、次年度の技大祭も本学へ皆様にお越しいただけるかわかりませんが、お越しいただけるとなれば皆様が楽しめるような企画を多数ご用意いたします。その時はぜひ、技大祭に足をお運びください。技大祭実行委員一同、心よりお待ちしております。



目玉企画である学籍番号抽選会の様子

# メイクセミナーを開催しました!

同窓会理事補 **近藤 みずき** (技術支援センター)、同窓会理事 **高橋 智** (技術支援センター)

今年度も12月8日(水)に、長岡技術科学大学の共催、株式会社ポーラ様のご協力の下、オンラインによるメイクセミナーを開催しました。このセミナーは、同窓会の学生支援事業の一環として今年度で12回目を迎えました。昨年度からオンラインによるセミナーとなり、就職活動や新社会人として必要な基本的なスキンケアや、オンライン対応のメイクポイントなど基本的なテクニックを学びました。参加者からは、「スキンケアのやり方から教えてくれるのは非常によかったです。実際にメイクする画面を見ることで、指の動かし方などわかりやすかったです。今まで知らなかったことを知れたのでよかったです。」などの感想が寄せられ、大変嬉しく思いました。このセミナーは毎年大変好評をいただいております。同窓会では、引き続きメイクセミナーなど、学生の皆さんが社会に出ていくためのお手伝いをしていきたいと考えております。機会がありましたら、ぜひご参加ください。



## ●2021年度会計報告

### 1. 一般会計収支 <自：令和3年3月1日～至：令和4年2月28日>

#### ■収入

科目	金額 (円)
入会金	5,675,836
雑収入	4,636
(公財)内田エネルギー科学振興財団 助成金	100,000
マラソン大会 参加費	70,050
前期繰越金	9,966,357
合計	15,816,879

#### ■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	55,383
	広報費	121,028
	助成・賞与	674,128
	活動経費	4,138,484
	小計	4,989,023
事務費	会議費	14,300
	雑費	7,440
	小計	21,740
新規積立		0
次期繰り越し		10,806,116
合計		15,816,879

### 2. 積立金会計収支 <自：令和3年3月1日～至：令和4年2月28日>

#### ■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額(定期)	42,000,000
新規積立	0
合計	42,000,000

#### ■支出

科目	金額 (円)
積立取り崩し	0
次期繰越額(定期)	42,000,000
合計	42,000,000

令和4年3月6日  
会計担当 坂田 健太

令和4年3月6日  
監事 山田 康博  
床井 良徳

## ●2022年度会計計画(案)

### 1. 一般会計収支 <自：令和4年3月1日～至：令和5年2月28日>

#### ■収入

科目	金額 (円)
入会金	6,000,000
積立金の取り崩し	0
雑収入	5,000
前期繰越金	10,806,116
合計	16,811,116

#### ■支出

科目	内 訳	金額 (円)
事業費	通信・運搬	100,000
	広報費	150,000
	助成・賞与	700,000
	活動経費	6,500,000
	小計	7,450,000
事務費	会議費	100,000
	雑費	50,000
	小計	150,000
新規積立		0
次期繰り越し		9,211,116
合計		16,811,116

### 2. 積立金会計収支 <自：令和4年3月1日～至：令和5年2月28日>

#### ■収入

科目	金額 (円)
前期繰越額(定期)	42,000,000
新規積立	0
合計	42,000,000

#### ■支出

科目	金額 (円)
積立取り崩し	0
次期繰越額(定期)	42,000,000
合計	42,000,000

令和4年3月6日  
会計担当 坂田 健太

## 編集後記

同窓会は40周年を迎えました。40周年を記念しキャリア講演会を企画しました。この講演会や本誌では、たくさんのOB・OGから協力を頂きました。深謝申し上げます。今後も元気に同窓会を盛り上げていきたいと思っております。引き続きご支援・ご協力お願い申し上げます。

## 同窓会連絡先

## 長岡技術科学大学同窓会

〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1

電話/FAX 0258-46-5505 e-mail dosokai@vos.nagaokaut.ac.jp

同窓会 HP : <https://nut-alumni.sakura.ne.jp/>

Facebook ページ : <http://www.facebook.com/NutAlumni>

住所・勤務先等に変更がございましたら、同窓会HPにてログインしていただき、登録情報の変更をお願いいたします。